

頑張れ東日本

今、私たちができること

被災地の一日も早い復興を願って

3月11日、午後2時46分ごろ、三陸沖を震源に発生した国内観測史上最大マグニチュード9.0の地震。そして、地震直後に発生した津波により広範囲で甚大な被害ができました。

今回の地震で被災及び犠牲となられた方々に対し、心よりお見舞いを申し上げます。

今回の地震については、国民のほとんどが、発生直後から今日に至るまでのテレビ報道等により、被災地の状況や地震災害の怖さを目の当たりにしたことだと思えます。

また、昨今、日本各地域で様々な自然災害が発生し、被災地支援・復興に向けた取り組みを行う機会がある中で、今回ほど「国をあげて、国民みんなでなんとかしなければ！」と誰もが思われたことはないのではないのでしょうか。

ここでは、遠く桂川町に住む私たちが、被災地の人々に対して「今できること」をまとめました。

なお、本誌面は3月25日現在において作成しておりますので、時間の経過とともに状況も変わります。被災地の状況や支援の内容、方法などの各情報については、県及び町の支援担当窓口や報道等にて適宜ご確認ください。

桂川町での支援に向けた取り組み

桂川町では地震発生後、直ちに総務課、健康福祉課、桂川町社会福祉協議会を中心として、町内各公共施設（役場、住民センター、総合福祉センター、桂川町総合体育館、いきいきセンター桂寿苑）へ、義援金募金箱を設置するとともに、役場及び社会福祉協議会職員による街頭募金を実施し、町民の皆さんから広く支援を募りました。義援金募金箱については、現在も設置継続中です。また、被災者の受け入れとして、提供可能な町営住宅の情報を福岡県に報告し、希望者があれば受け入れる体制をとっています。

町内の団体や企業等での取り組みとしては、行政区単位での支援物資の取りまとめや募金活動、桂川町商工会青年部による街頭募金活動や震災直後に天道工業団地にある竜王運輸が自社トラックにて飲料水を被災地まで持参するといった支援の報告があつています。また、町内の各教育施設では、生徒・児童らによる募金活動や、住民個人で県やNPOを通じて支援物資を被災地へ送るといった支援の輪が広がっています。

今回の震災による被害が、大変甚大であることから、今後も多くの皆さんの継続的な支援及びご協力をよろしく願います。

被災地の

一日の足り